

穂いもち早期発見・早期防除

葉いもちが多発している圃場に隣接している圃場では出穂期～7日後にトライ剤かラブサイド剤の茎葉散布をしてください。

葉いもちが発生している圃場では、出穂直前にトライ剤かビーム剤、穂揃期にトライ剤かラブサイド剤の茎葉散布を行ってください。

葉いもちが多発している圃場では、上記に加え傾穂期にラブサイド剤による追加防除を行ってください。

○防除方法

農薬名	粉剤DL	ゾルフロアブル	散布時期	散布量又は希釈倍数(散布液量)
トライ		○	出穂直前穂揃期	粉剤DL: 3~4kg/10a ゾル・フロアブル 1,000倍(100~150L)
ビーム	○	○	出穂直前穂揃期	
ラブサイド	○	○	穂揃期傾穂期	

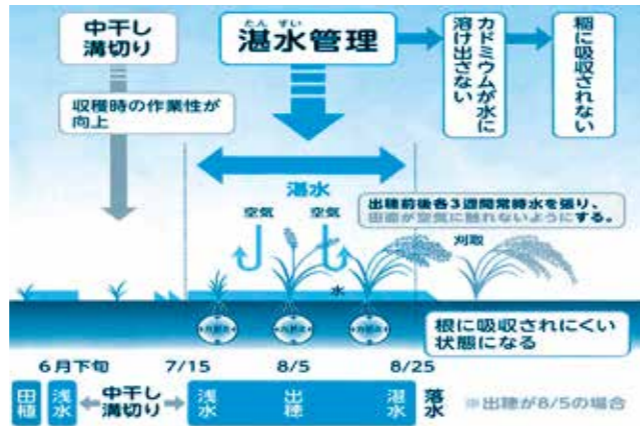


葉いもちに感染したイネ 穂いもちに感染したイネ

※フサライドの本田での使用回数は3回以内の注意する。
(フサライドはラブサイド剤、ブラシン剤に含まれる成分です。総使用回数に注意してください。)
ビームゾルは傾穂期以降に散布すると薬害を生じることがあるため注意が必要です。

カドミウム対策

対象地域では、カドミウムを稲に吸収させないため、出穂前後各3週間は常時水を張り、田面が空気に触れないように管理してください。カドミウムは土壌中の酸素が少ない状態になると土壌中の硫黄と結合し水に溶けにくくなり、稲に吸収されにくくなります。

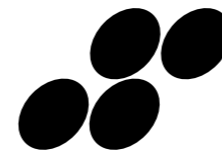


農薬安全使用

薬剤散布をする場合は、以下の点に注意し散布しましょう。

- ◎農薬のラベルに記載されている使用基準を遵守する。
- ◎農薬散布時は農薬飛散(ドリフト)しないよう風向や風速に気を付け、強風の場合は散布を控える。
- ◎農薬飛散(ドリフト)による周辺農作物等への影響が懸念される場合は、水面施用剤(粒剤)を用いる。
- ◎薬剤散布を実施する際は、周辺の住宅地や農作物に配慮し、事前に近隣住民に知らせる。
- ◎養蜂が行われている地区で薬剤散布をする場合は、養蜂業者と連携をとり、できるだけ早朝または夕刻に散布するなど、ミツバチへの危害防止を徹底する。

No.5



安心のネットワーク
NOSAI

農業技術情報

令和3年8月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



こまめな水管理で高温登熟を乗り切ろう

管内の7月26日現在の生育状況は、草丈は80.5cmで平年より長く、茎数は476本/m²で平年並、葉色は平年並となっています。

長期予報では、8～9月は気温が高いと予報されているため、高温登熟に対応した水管理が必要です。ただし、少雨傾向であるため水不足が心配されます。地域で協力し合い水回しを行うようお願いします。

あきたこまち定点調査結果(7/26)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	SPAD値	葉数 (葉)
本年値	80.5	476	37.3	12.1
平年値(平年比)	72.5(111%)	487(98%)	38.2(98%)	12.0(+0.1)
前年値(前年比)	76.0(114%)	464(103%)	40.4(92%)	11.8(+0.3)

8月の栽培技術留意点

高温登熟対策

この夏の高温登熟への対策は万全ですか？高温登熟は水管理で被害を軽減させることができます。限られた水資源を有効利用するため、節水を心がけながら、地域で水回しの話し合いをするなど、気象変動に智力を結集し乗り切りましょう。

高温登熟対策

水管理で根を冷やす
地域で協力し合い水回し

病虫害雑草対策

いもち病が発生している圃場があります。上位葉で発生している場合は穂いもちへ移行する危険性が大きいです。

ノビエやホタルイがほ場内や畦畔に残草していると斑点米カメムシ類の繁殖地となり、斑点米被害が増えてしまいますので、早期に除去してください。

一度、病虫害雑草が発生すると抑えるのに一苦労し、翌年にも被害を引き継ぐことになるので、圃場観察し早期発見早期防除を基本としましょう。

安心のネットワーク
NOSAI から

園芸施設共済 台風シーズン到来!今すぐご加入を!



なんととっても
安心が一番!

被覆、未被覆期間を補償する周年加入です。
(被覆期間は1ヵ月から選べます。)

※詳しくはNOSAIまで TEL 0187-63-1066

高温対策

今年はやや早く梅雨明けし、長い間高温にさらされています。今後も高温が予想されていることから、引き続き、高温登熟を防ぐ水管理をお願いします。登熟期が高温だと白未熟粒やくさび米、胴割米が発生するほか、米粒が小さくなってしまい品質低下が著しくなります。登熟期の対策は水管理のみですので、溝切り跡を利用して効率的な水管理をしてください。また、用水不足の地域では、地域で協力し合い水回しを行ってください。

出穂期～登熟期の水管理

出穂当初は水を多く必要とする時期なので、走り穂がはじめてから穂揃い期までは水深5～6cm程度の湛水管理とします。その後、落水期まで2～3cmの浅水、間断かん水を行います。

落水の時期は、概ね出穂後30日とします。早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退によって収量・品質・食味が低下するなどの悪影響を及ぼします。圃場や用水の条件によりますが、収穫作業に支障の出ない時期まで落水を遅くすることがポイントです。



あきたこまち刈り取り適期予想

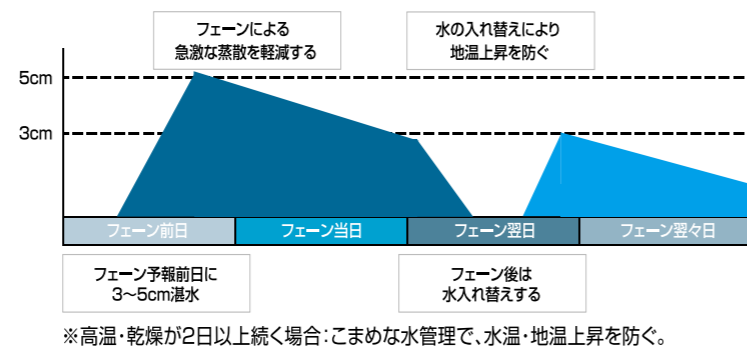
想定条件：8/3出穂期、平均気温が平年より1℃高い。8/3からの平均気温積算値により算定。

アメダス地点	950℃到達予想日
大曲 (標高 30m)	9月10日
角館 (標高 56m)	9月10日
田沢湖 (標高230m)	9月10日

※目安としてご確認ください。
※気象条件や稲姿によって適期が変わります。
※7月30日現在予想データ。

高温時、フェーン時の対応

日中の最高気温32度以上の日やフェーン現象により乾燥した風が吹く場合は、根の吸水量より葉の蒸散量が多くなり、葉先枯れや株元の枯れ上がりが進み、登熟不良の原因となります。事前に予想される場合は、早めにしっかりと湛水し、登熟障害を回避してください。

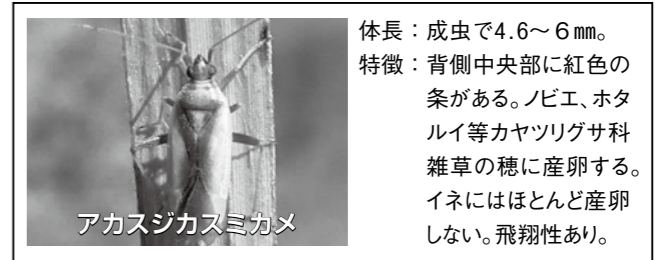


※高温・乾燥が2日以上続く場合：こまめな水管理で、水温・地温上昇を防ぐ。

斑点米カメムシ類対策

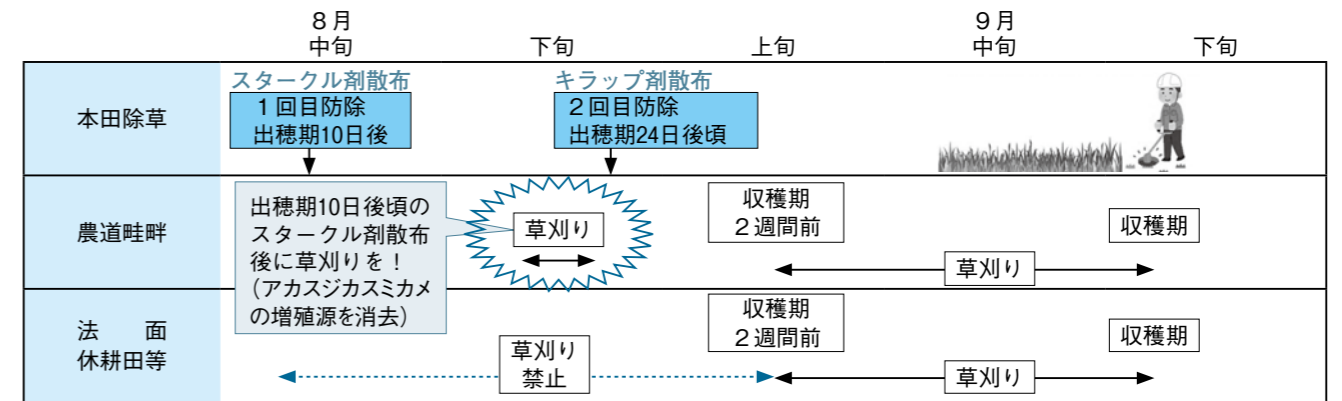
秋田県病害虫防除所より7月30日に発表された農作物病害虫発生予察情報発生予報第4号(8月予報)によると、本年の斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)は、発生時期はやや早く、発生量が多いと予想されています。ノビエやホタルイ等カヤツリグサ科雑草が多く残ってしまうと、圃場内への侵入が多くなり被害が増えてしまいます。圃場内や畦畔、農道、休耕田などの雑草地の除草、草刈り、薬剤防除を組み合わせ、斑点米被害を抑えましょう。

主なカメムシの特徴と防除概要



1. 耕種的防除

- ①出穂期10日後頃に茎葉散布剤を散布後、5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努めます。その後、稲の収穫2週間前まで草刈りを行いません。
- ②法面や休耕田などで薬剤を使用しない雑草地は、稲の出穂10日前までに草刈りを実施し、その後収穫2週間前までは草刈りを行いません。



2. 薬剤防除

通常の防除は出穂期10日後頃の一回散布を基本としますが、今年はカメムシの発生が多いことから、1回の防除では防ぐのが難しいため、出穂期10日後頃と出穂期24日後頃の2回散布を基本としましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率/散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤10	1,000倍/60~150ℓ		
追加防除 出穂期24日後頃	キラップ粉剤DL	3~4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	1,000~2,000倍/60~200ℓ		

出穂期～登熟期の水管理

出穂後日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35				
秋のさらめき	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1				
あきたこまち	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7				
ゆめおぼこ	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11				
管理の目安	出穂期										フェーン時は水管理で地温冷やせ! ※上図参照										出穂期10日後頃 斑点米カメムシ類 1回目防除 スターフル剤										出穂期24日後頃 斑点米カメムシ類 2回目防除 キラップ剤									
	草刈り禁止期間(出穂10日前から)										1回目防除後5日以内に草刈り 農道、畦畔含む										草刈り禁止期間(収穫14日前まで)																			
生育時期	花水(水深3cm程度湛水)										間断かん水										排水不良田落水期										早期落水禁止 溝切り跡活用し実らせよ									
	白未熟粒発生危険期 日最高気温32℃以上、夜間25℃以上は水入れ替えて地温冷やせ!															白未熟粒発生警戒期										刈り遅れ注意														
	開花期					登熟期										落水期																								